第3期「日野人げんき！」プラン

平成28年度進捗状況評価報告

日野市健康福祉部健康課

【第3期「日野人げんき！」プランについ

設定期間：平成28年度～平成32年度

≪目的≫　**健康寿命延伸のための取り組みの推進**
〔取組みの方向〕　**ヘルスケア・ウエルネス戦略**

上記を掲げ大目標1～8を設定
大目標1～4については本プランで推進。
大目標5～8については他の部門の事業・計画により推進。

【平成28年度評価の方法について】

・評価体制：『主管課評価』→『庁内評価会議』→『評価推進委員会』
の3段 階で実施。

『主管課評価』　取組みを担当している課が評価
『庁内評価会議』「日野人げんき！」プラン 評価実施要綱に基づき庁内で評価
庁内評価メンバー　男女平等課長、保険年金課長、都市計画課長、
庁内生活福祉部長、保育課長、中央公民館長、健康課長
『評価推進委員会』「日野人げんき！」プラン 評価実施要綱に基づいた構成メンバー
（1）　公募による市民代表3名
（2）　医師会、歯科医師会、薬剤師会が推薦する者3人以内
（3）　日野市職員3人以内・・・健康福祉部長、子ども部長、教育部長

・評価の基準：下記5段階で設定
「達成」　指標が10割または完全に達成されている
「順調」　指標が約8割達成、または順調に進んでいる
「おおむね順調」　指標が約5～6割達成、進んでいる
「一部見直し」　指標が約4割程度の達成、または一部の修正が必要
「全面見直し」　全面的な修正を要する

平成28年度評価内容

主管課評価

・本プランで設定した数値目標（健康指標）を含め中目標の達成状況についての評価を行った。

・主管課での評価結果は16の中目標に対し「順調」・・・３、「おおむね順調」・・・13でした。（後ページ【参考資料】参照）

・数値目標の設定に一般アンケートの結果を用いた目標設定をしている項目では指標に対する実績数値が出せないとの指摘がありました。この場合、項目への評価は取り組みの方向性や取り組みに関連する数値を用いて評価につなげました。

庁内評価会議

・上記「主管課評価」をふまえ、本プランで設定した数値目標（健康指標）を含め中目標の達成状況についての評価を行った。

・庁内評価会議での評価結果は　16の中目標に対し「順調」・・・５、「おおむね順調」・・・９、「一部見直し」・・・２　でした。

・「一部見直し」は数値での実績が示せていないことで評価につながりにくいとの意見をもらいました。（後ページ【参考資料】参照）
　→これに対し、主管課で検討。参考指標として受診者実績数を用いたり受診者の伸び率を表記していくこ

裏ページへ

つづき

評価推進委員会

・上記「主管課評価」「庁内評価会議」をふまえ、中目標の達成状況についての評価を行った。

・「評価推進委員会」をもって平成28年度の評価結果とし、市民へ公表してまいります。

・評価推進委員会での評価結果は16の中目標に対し 「順調」・・・５、「おおむね順調」・・・11　でした。
　取組み内容は評価を得てますが実績について工夫した状況の提示が必要との指摘をいただきました。
　→これに対し主管課で実績提示の工夫について検討し、参考資料として市で実施した検診の受診率または受診の伸び率を提示していくことにしました。

・「評価推進委員会」の結果をもって各主管課にフィードバックしています。今までにもらった意見や指摘を含め主管課で検討し、今後の取り組みや改善につなげていきます。

・「評価推進委員会」の各中目標の結果は次ページ『第3期「日野人げんき！」プラン平成28年度評価概要（評価推進委員会）』を参照してください。

第3期「日野人げんき！」プラン平成28年度評価概要（評価推進委員会）

・評価の基準：下記5段階で設定
「達成」　指標が10割または完全に達成されている
「順調」　指標が約8割達成、または順調に進んでいる
「おおむね順調」　指標が約5～6割達成、進んでいる
「一部見直し」　指標が約4割程度の達成、または一部の修正が必要
「全面見直し」　全面的な修正を要する

大目標	中目標		中目標への評価	指摘事項	今後の取り組み
1、健康づくりを推進します	1	妊娠出産子どもの健康診査や予防接種及び相談体制を充実します	順調	それぞれの目標指標に対してほぼ達成している。	維持継続
	2	生活習慣病予防（国保特定健診・特定保健指導）を推進します	おおむね順調	他市町村の取組も参考に取組む必要あり。	受診機会の工夫をする。保健指導は初回面接につながることを重点に取組む
	3	運動による健康づくりを推進します。	おおむね順調	輝の事業は健康づくりの入口となる事業であるため、他に循環するような連携体制を作っていく必要がある。	特定健診の案内に運動施設「輝き」や運動方法に関する周知啓発のチラシを作って同封する。
	4	喫煙のリスクに関する正しい知識の普及・啓発に取り組みます	おおむね順調	受動喫煙対策については、東京都の動きが加速している。日野市も効果的な対策に取り組むことを望む。	市内小中学校における喫煙リスク教育や妊婦への受動喫煙指導の継続
	5	心の健康づくりを充実します	おおむね順調	早めの気づきを促す取り組みや専門機関の紹介など、色々な情報を提供していくことを検討してほしい。	休養の大切さについてチラシを作成し、特定健診対象者へ配布。
	6	健康づくり推進員・健康体操サポーターによる市民の健康づくりを推進します。	順調	サポーター、健康推進員の高齢化については一工夫必要。	サポーター育成にサポーター指南役制度の工夫。フレールの要素も入れた推進員活動の展開
2、がん対策を推進します	1	科学的根拠に基づくがん予防を推進（１次予防）します。	おおむね順調	取り組みは継続で評価できるが実績の提示については、率そのものは確定していなくても、工夫して状況が伝わる努力をすべきである。	指標の参考として市で実施した検診の受診率または受診の伸び率を載せていく
	2	がんの早期発見を推進（２次予防）します。	おおむね順調	取り組みは継続で評価できるが実績の提示については、率そのものは確定していなくても、工夫して状況が伝わる努力をすべきである。	指標の参考として市で実施した検診の受診率または受診の伸び率を載せていく
	3	がんの健康教育およびがんの普及・啓発活動を推進します	おおむね順調	早期の100%達成を望む。	維持継続
	4	がん患者やその家族への支援をすすめます	大目標４「住み慣れた地域で生き看取られる暮らしへの支援を充実します」により評価		がん患者に関する地域情報含め現状把握を行う。がん患者への聞き取りやニーズ調査など検討中
3歯とお口の健康づくりを推進します	1	【乳幼児期】歯みがきや噛む習慣を身につけ、むし歯のない健康なお口を育てます。	順調	乳幼児からの歯科検診は非常に重要である。	維持継続
	2	【学童期】歯とお口の健康づくりの基礎をつくりむし歯と歯周病を予防します。	順調	未受診者に対するフォーロー体制構築についても進めて欲しい。	維持継続
	3	【成人期】かかりつけ歯科医で定期的に健診を受診し自己管理方法を取得することでお口の健康および全身の健康を守ります。	おおむね順調	受診率向上のために、機会の拡大と受診の必要性の周知が必要	再勧奨通知を年2回実施
	4	【高齢期（障害含む）】自分に合った口腔ケアを実践ししっかり噛める歯を保ち食事を楽しむことをすすめます	おおむね順調	摂食嚥下機能の認知度向上には、民間等の力を借りて共に進めるような取り組みが必要である。	摂食・嚥下機能の体制整備 後期高齢者歯科検診開始に向けた体制整備。
4住み慣れた地域で生き看取られる暮らしへの支援を充実します	1	総合的な健康情報の発信の体制を確立します	順調	「ぽけっとなび」やフェイスブックの評価は、今後アクセス数やフォロワー数等で評価すべき。	情報発信の評価にフェイスブックのアクセス数やフォロワー数も取り入れる。
	2	医療と介護の連携を推進します	おおむね順調	今後も地域における他職種連携の強化推進により成果を期待する。	平成30年度より「第3期日野市高齢者福祉総合計画」にて推進。
	3	地域連携による認知症対策を強化します	おおむね順調	指標として年次計画が立てられると評価につながるのではないか。	平成30年度より「第4期日野市高齢者福祉総合計画」にて推進。

＜参考資料＞

【参考資料】平成28年度　第3期「日野人げんき！」プラン評価（詳細）

大目標	1健康づくりを推進します

		主管課評価							庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課		取り組み内容	健康指標 H28目標	健康指標 H28実績	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題、指摘事項	達成状況	評価と課題	
(1)	妊娠・出産・子どもの健康診査や予防接種及び相談体制を充実します 第3期「日野人げん	健康課	1	妊娠期からの支援を必要とする人が、切れ目のない支援を受けた数値を100%にします。 妊婦全数面接：妊婦把握数1,621人,妊婦面接数1,612人。妊婦面接をきっかけに切れ目なく支援することに取り組んだ。未面接9人には電話や手紙を通して面接に誘っている。。	切れ目ない支援受けた割 100%	99%	順調	乳幼児健康診査受診率、二種混合接種率、子ども家庭支援センターの連携強化、いずれも指標達成できた。妊婦全数面接は9名とつながらることができなかった。母子健康手帳発行時の関係者（夫・祖母）等との面接機会から粘り強くつながる努力が必要。また、今後は行った支援自体の評価をしていくことも必要なことや、勧奨方法の見直しも必要である。	順調	相談体制のあり方は充実し順調に推移している。未受診、未面接の方のフォローをを継続実施し高水準をを維持してほしい	順調	出産・子育て応援事業の実施によって、妊婦からの全数把握が可能となり、早期の支援体制がとれたことは大いに評価する。 それぞれの目標指標に対してほぼ達成している。未面接の妊婦に対してもフォローが出来ている。	昨年度に引き続き受診率向上、健診未受診者への全数把握に取り組んでいく。予防接種の向上に対して工夫を検討していく。
			2	乳幼児健康診査の受診率を98%以上に保ちます。 H27年度からは転入者も含めた適正な対象者とし、未受診者フォローの全数把握に取り組んだ。 3～4か月健診　対象者数1,613人受診者数1,549人 1歳6か月健診　対象者数1,642人受診者数1,572人 3歳児健診　　対象者数1,603人受診者数1,561人	未受診児の状況の把握割 98%	98%							
			3	接種率の低い二種混合第2期の接種率を80%にします。 対象者へ年度初めに勧奨通知を送付。 対象者1638人、接種者1221人	二種混合の接種率 72%	75%							
			4	子ども家庭支援センターとの連携により、健診未受診児の状況を全数把握します。 子ども家庭支援センターとの連携強化会議年6回実施し情報共有に取り組んだ 未受診者数 3～4か月健診　受診者1549人のうち未受診64人 1歳6か月健診　受診者1572人のうち未受診70人 3歳児健診　　受診者1561人のうち未受診42人 未受診児へのアプローチで発育状況は全数把握できた	未受診児の状況の把握割 100%	100%							

【参考資料】平成28年度　第3期「日野人げんき！」プラン評価（詳細）

大目標	1健康づくりを推進します

		主管課評価							庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課		取り組み内容	健康指標 H28目標	健康指標 H28実績	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題、指摘事項	達成状況	評価と課題	
(2)	生活習慣病予防（国保特定健康診査・特定保健指導）を推進します 第3期「日野人げんき！」プラン冊子　P25～	健康課	1	国保特定健康診査の受診率を平成29年度までに60%にしていく。 個別受診勧奨（ハガキ、電話）を実施（保険年金課）し、さらに40～64歳の希望者全員に集団健診を実施（健康課）した 　対象者数27,097人　受診者数　13,037人	国保特定健診の受診率 58%	48.1%	概ね順調	全体として様々ば工夫をして、取り組みを行っているが、結果達成できてない、特定保健指導開始から、８年が経過し新鮮さがなくなり受診意欲の低下も大きな要因となっている	概ね順調	受診勧奨の方法等様々な工夫が行われており、概ね順調である。 毎年の健診となるので、受診意欲の低下を防ぐより一層の工夫が必要と思われる。 今回は事業の見直しではなくとりみ内容の精査をしていくという視点で評価する。 無保険者健診（生保受給者）への受診勧奨に生保ケースワーカーとの連携で取り組むことも可能か（要検討）	概ね順調	受診率向上のためにハガキ、電話による個別受診勧奨をしたり、保健指導で集団面接を取り入れるなどのさまざまな取り組みは評価できるが、結果が達成できていないのは残念である。他市町村で実績を上げている取組等があれば、参考にし取り入れていく必要があると考える。	【特定健診】受診率向上のために受診機会の工夫をする。受診者の地域別の分析し集団健診を地域別で行うことを検討する。 【特定保健指導】初回面接につながることを重点におき取り組んでいく。来所時特典の見直しを図る。
			2	国保特定保健指導の実施率を平成29年度までに60%にしていく。 実施率向上のために集団面接を取り入れるなど工夫をした。 H27年度の最終実施率は22.8%（対象1437人、終了者数327人）	国保保健指導の実施率 60%	H30年1月確定予定							
			3	メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の減少率を25%以上にしていく。 そのために保健指導で集団面接を取り入れるなど内容の充実に取り組んだ。また、特定健診全受診者へ生活習慣病のパンフ配布による情報提供、予防講演会の開催をした。 H27年度の減少率は25.1% 　（該当者3,205人　リスク下がった人804人）	メタボ該当者、予備軍の減少 25%	H29年11月確定予定							

【参考資料】平成28年度　第3期「日野人げんき！」プラン評価（詳細）

大目標	1健康づくりを推進します

		主管課評価							庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課		取り組み内容	健康指標 H28目標	健康指標 H28実績	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題、指摘事項	達成状況	評価と課題	
(3)	運動による健康づくりを推進します 第3期「日野人げんき！」プラン冊子　P27	健康課 文化スポーツ課	1	「1回30分以上の軽く汗をかく運動を週2日以上」を1年実施している人の割合を60%にしていく。 そのために「健康サポートルーム輝」の紹介と運動実施の勧奨を行った 「健康サポートルーム輝」の新規登録者数は394人から571人、延べ利用者数も15,019人から16,226人と増加した	運動している人の割 52.0%	46.7%	概ね順調	「サポートルーム輝」の初回登録者数・利用者数は増加することができた。引き続き拡大を目指す。 特定健診対象者の実績が増加する工夫していきたい。 保健指導の際に「サポートルーム輝」を紹介するなど運動実施の勧奨を行っているが、年度目標達成には至らなかった。 今後も様々な工夫を行っていく必要がある	概ね順調	「輝き」の利用者数増加は評価に値する。 様々の新規取組の成果が表れた結果だと思う。今後は継続していくことと、その体制の強化が必要であり粘り強く対応してほしい要がある。 「運動による健康づくり」の全てを健康課が担うのでは、限界がある。文化スポーツ課を初め、各課の類似の事業を成果に取り組んでよいのではないかと思う。	概ね順調	・さまざまな取り組みが実施され利用者数が増えているのは評価できる。 ・まだまだ知らない人たちも多いのでPRにも努めてほしいと思う。 運動実施率を向上させるためには、既存の運動事業をきっかけとして、市民が個々に健康づくりに取り組む流れを作っていきたい。輝の事業はその入り口となる事業であるため、この事業に利用者が滞留するのではなく、他に循環するような連携体制を作っていく必要がある。	・H30年度中間アンケートにて「スポーツに対する生活習慣」について統計を取る。 ・健診案内に運動のきっかけづくりの場である「サポートルーム輝」（無料）や「南平体育館のトレーニング室」（100円/回）などの市内運動施設のチラシや「自宅でできるトレーニング」のチラシを封入する。
			2	週1回以上のスポーツ実施率が、都の掲げる世界のトップレベルの70%にしていく。 ・特別巡回ラジオ体操みんなの体操会（目標：1,000人→実績1,388人） ・日常の運動習慣を促進する「ちょこっと散歩会」（目標：1,760人→実績1,000人） ・親子で運動するきっかけづくりとして「SOMPOボールゲームフェスタ2016in日野」（目標：定員220名→実績137名） ・ロープジャンプ小学生大会の開催（目標：定員1,000人→実績1,110人） ・市民の森ふれあいホール指定管理による各種運動プログラムの提供（目標：前年参加者数2,860名を上げる→実績3,014名） ・スポーツ推進委員による「ちょこっとウォーキング」 （目標：330人→実績369人） ・トップアスリート3名を招聘した体育の日の「スポーツレクリエーションフェスティバル」（目標：1,728人→実績1,880人） ・障害者の運動習慣を促進する「障害者スポーツ体験教室」ほか（目標：開催数を前年（10回）の倍に→実績24回開催）	週1回以上のスポーツ実 —	—							

【参考資料】平成28年度　第3期「日野人げんき！」プラン評価（詳細）

大目標	1健康づくりを推進します

		主管課評価							庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課		取り組み内容	健康指標 H28目標	健康指標 H28実績	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題、指摘事項	達成状況	評価と課題	
(4)	喫煙のリスクに関する正しい知識の普及・啓発に取り組みます 第3期「日野人げんき！」プラン冊子　P29	健康課	1	国保特定健診受診者における喫煙率を11.5%にしていく。 健診受診者における喫煙率を減らすために禁煙への周知として特定保健指導やがん検診の場で啓発活動を行った。	国保受診者の喫煙率 12.3%	12.1%	概ね順調	喫煙率は微減している。今後も特定保健指導やがん検診の場で啓発活動を行っていく小中学生向け禁煙教育については保健体育の学習指導要領に盛り込まれているためまた教科書選定の際に生活習慣病の単元の中でがん予防についても触れている教科書を選定する方針の為、小中学校ともに実施率は引き続き100%となる見通し。 2020年東京オリパラに向け、受動喫煙防止等など動向を注視し、具体的に対応していく。	概ね順調	喫煙リスク教育が、全校で行われたことは大いに評価する。今後も継続していく。 第3期特定健診実施計画策定時には、禁煙を主としたCOPD対策も検討する必要がある。健康課と保険年金課が協力し合い、より推進していきたい。 禁煙教育については指標達成。今後の指標を検討する必要あり。	概ね順調	がん教育とともに禁煙リスク教育が小中学校全校で行われたことは大いに評価したい。今後も是非継続してほしい。 受動喫煙対策については、東京2020オリンピック・パラリンピックに向け国より東京都の動きが加速している。この状況に遅れることなく、日野市としても効果的な対策に取り組むことを望む。	医師会・歯科医師会・薬剤師会で禁煙外来のチラシを配布する（H30年度） 市内小中学校における喫煙リスク教育の継続・維持 妊婦とその家族に対する喫煙リスクの周知啓発（妊婦面接・ママパパクラスにおいて）
			2	市内の小中学校で、がん教育と合わせて、喫煙リスクに対する正しい知識の教育を全ての学校で実施していく。 小学校・中学校ともに保健体育の教科書に掲載された禁煙教育を活かして。各学校で原則1時間ずつ授業中に扱った。実施率100%。	がん教育をした学校 24%（6校）	100%（25校）							
			3	日野市の一日あたりの喫煙本数を毎年0.04本減らしていく。胃・肺・大腸がん検診会場において、禁煙希望の方に対して個別相談の機会を設け、新たな取り組みを始めた。	たばこ税からの喫煙本 3.16本	3.22本							
(5)	心の健康づくりを充実します 第3期「日野人げんき！」プラン冊子　P31	健康課	1	睡眠で十分休養がとれていない市民を20%に減らしていく。 睡眠・休養の知識の普及を地域のゼミナールで啓発した。保健師のゼミナールにて、ゲートキーパーの養成を９団体、197名に実施	国保健診の問診票から「休養十分取れてない」 21%	22%	概ね順調	・ゲートキーパーについて、健康意識の高いゼミナール参加者に啓発することで、うつ予防に寄与している。 ・目標数値について際立った変化が見られないため、今後も健（検）診や、健康事業などで、睡眠や休息についての知識の普及を図り、数値改善を図っていく。	概ね順調	国保の医療レセプトの分析では、精神疾患の患者数及び医療費が毎年増加している。 睡眠や休息についての知識の普及、啓発活動を継続することが必要。 ゼミナール開催数からみると順調に見える。 また、ゲートキーパーの取り組みが市民に浸透することで別の効果が見えてきそうだが。 この指標だとゲートキーパーが増えることで休養がとれるようになるという理論になる。指標材料のデータ元を国保医療レセプトからとったらどうか。 以上のことから事業としては順調、取り組み内容については精査していく。	概ね順調	ゲートキーパーの存在について一般市民にはあまり知られていないのではないか。今少しPRの必要があるのではないか。 目標を達成するためには、当該事業の実施だけでは、困難であると思われるため、早めの気づきを促す取り組みや専門機関の紹介など、色々な情報を提供していくことを検討してほしい。	・「日野人げんき！」ゼミナールなどでゲートキーパー養成を通してゲートキーパーの役割、うつの知識と早期治療の大切さを普及。 ・休養の大切さについてチラシを作成し、特定健診対象者へ配布。

【参考資料】平成28年度　第3期「日野人げんき！」プラン評価（詳細）

大目標	1健康づくりを推進します

		主管課評価							庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課		取り組み内容	健康指標 H28目標	健康指標 H28実績	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題、指摘事項	達成状況	評価と課題	
(6)	健康づくり推進員、健康体操サポーターによる市民の健康づくりを推進します。 第3期「日野人げんき！」プラン冊子　P33	健康課	1	健康づくり推進員の新規人数を増やしていく。 そのために広報、カラー刷りのチラシ配布にて募集。その結果推進員による勧誘活動により新規登録につなげた。	健康づくり推進員の新規 5人	8人	順調	Ｈ29年度養成講座を実施し、Ｈ30年度に登録予定。既存の健康体操サポーター平均年齢は68歳に対し、新規候補生3名の平均年齢は50歳であり、今後のサポーター体制継続に期待できる。また、サポーター協議会と協議を重ね、健康体操サポーター制度に関する要領やサポーター会則等の改正を協働で実施したことで、サポーター自身の主体性が向上している。今後も引き続き世代交代を図る必要がある。	順調	順調に推移しているが、サポーターや推進員の世代交代等について取り組みをより進める必要があるのではないか 総登録者数の状況や登録者の年齢などを勘案し、新規の登録を図る工夫を継続願いたい。	順調	健康指標を上回る新たな人員が確保できたことは評価できる。また、世代交代や主体性の向上等の課題についてもしっかり認識されているので、課題解決に向け今後も協力して取り組んで欲しい。サポーター、健康推進員の高齢化については一工夫必要かなと思われる。この制度、市民が市民を指導していくことをより発展的に継続してもらいたい。	・新しいサポーター育成のためにサポーター指南役制度を作る。 ・体操以外の活躍できる役割を作る ・フレールの要素も取り入れた健康づくり推進員活動の展開 ・健康づくり推進員の年齢構成の若返り
			2	健康体操サポーターの新規人数増やしていく。 そのために広報、チラシにて募集。その結果候補生として登録に至った。「健康体操サポーター候補生（第７期）」として、３名が登録。	健康体操サポーターの新規人数 2人	3人							

大目標	2. がん対策を推進します 目標1　がんによって亡くなる人を減らします 目標2　がんになってもみんなが安心して自分らしく暮らせる地域社会の実現を目指します

		主管課評価						庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課	取り組み内容	健康指標 H28目標	健康指標 H28実績	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	
(1)	科学的根拠に基づくがん予防を推進（１次予防）します 第3期「日野人げんき！」プラン冊子　P35～	健康課	１がんに関する生活習慣の取り組み ・たばこ対策や、運動、食生活、飲酒等、がん予防に関する生活習慣の施策を展開します	たばこ・運動・食生活は「大目標1健康づくりを推進します」		概ね順調	3.胃がんリスク検査については、年度当初のがん検診案内及び12月には再勧奨を行ったが、年度目標の達成には至っていない。対象者の拡大や勧奨方法の見直しが必要	一部見直し	がんの予防、早期発見に向けて、対象者への個別対応など、きめこまかな対応が進められている。事業を進めることは賛成。 実態実績の把握が足りていない、結果の出し方などより一層の工夫が必要	概ね順調	胃がんリスク検査等は、まだ始まったばかりの取り組みであり、対象者は絞られているので、工夫の余地はあると考える。がんの早期発見のためには、いかに健診を受診してもらうかであるため、当該事業の枠だけでなく、色々な事業を活用しての受診者の拡大を図っていく必要がある。	胃がんリスク検査については、対象年齢を、40歳のみから40歳及び50歳に拡大。 受診勧奨については、B型C型肝炎ウイルス検診、胃がんリスク検査の未受診者に対し送付予定。 指標の参考として市で実施した検診の受診率または受診の伸び率を載せていく（H30年度から） H30年度中間アンケートを実施。
			２　ウイルスの感染に起因するがんに対する取り組み ・B型・C型肝炎ウイルス検診の受診率向上：40歳の未受診に対し受診勧奨通知を発送	肝炎ウイルス検診受診 44.7%	未把握							
			・B型・C型肝炎ウイルス陽性者の重症化予防：確実に医療機関につながるために対象者への勧奨通知と連絡をとって受診確認をした　　対象者1名　実施者1名	陽性者への受診勧奨確認 100%	100%							
			・胃がんリスク検査の受診率向上のため年度当初のがん検診案内及び12月には再勧奨を行った 対象者2,766名　受診者585名	胃がんリスク検査受診 24.0%	21.1%							

大目標	2. がん対策を推進します 目標1　がんによって亡くなる人を減らします 目標2　がんになってもみんなが安心して自分らしく暮らせる地域社会の実現を目指します

		主管課評価							庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課	取り組み内容	健康指標 H28目標	健康指標 H28実績	達成状況	評価と課題		達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	
(2)	がんの早期発見を推進（2次予防）します 第3期「日野人げんき！」プラン冊子　P44～	健康課	1　科学的根拠に基づいたがん検診の実施 ・国の指針に基づいたがん検診を実施	がん検診の実施率 100.0%	100.0%	概ね順調	受診率向上に向けて、各検診毎に対象年齢を決め、勧奨、再勧奨通知を発送している。今後は勧奨通知だけでなく新たな工夫が必要		一部見直し	・がんは、死亡原因のトップであることから、がん健診事業は最重要事業であると言える。しかしながら受診の低迷は国全体としても問題となっている。さらなる受診率向上を願う。 勧奨ハガキを出すことで効果は得られている。結果の出し方などの工夫が必要	概ね順調	受診率向上に向けて各健診毎に対象年齢を決め勧奨・再勧奨通知を発送しているのは評価できる。 実績の提示については、率そのものは確定していなくても、関係する数値の実績など、工夫して状況が伝わる努力をすべきである。実績が未把握なので次年度評価ができない点を見直す必要があるか。	各検診において、受診率向上を目指し、ターゲット層を決め、受診勧奨通知を送付予定。 大腸がん精検受診率向上の取り組みは28年度に構築した精検結果の把握ルートを円滑に運用実施する 指標の参考として市で実施した検診の受診率または受診の伸び率を載せていく（H30年度から） H30年度中間アンケートを実施。
			2 がん検診の質の向上 ・大腸がん検診では医療機関と要精検者へ受診アンケートを配布及び電話勧奨にて実態把握。 H27年度　受診者数23,724人、うち要精検者数1,803人 受診アンケート配布数　601通 ・精検の重要性を伝えることで精検受診率をさらにあげるため受診者全員へ配布するリーフレットを作成。 ・精検結果を確実に把握できるルートの構築：精検結果が市へ到達するルートの新構築に向け検診実施医療機関への説明会開催、精検受診の重要性を当事者へ説明してもらう、精検結果専用書式の設置により市と医療機関の連携の充実を図った。	大腸がん精検受診率 46.3%	未把握（H30年度に確定）								
			3 がん検診の受診率の向上 乳がん検診の受診率を上げるために ・対象年齢へ無料クーポン券及び受診勧奨通知発送。 無料クーポン発送数　5,933通 その他勧奨通知　6,168通 ・乳幼児健診の保護者対象にがん検診リーフレット配布 ・東京都と共催でピンクリボンキャンペーン開催 ・乳がん触診モデルを乳幼児健診会場に設置し教育を実施	乳がん検診の受診 19.8%	未把握（H30年度に確定）								
			子宮頸がんの検診の受診率を上げるために ・対象年齢へ無料クーポン券及び受診勧奨通知発送。 無料クーポン発送数　5,564通 その他勧奨通知　4,895通 ・乳幼児健診の保護者対象にがん検診リーフレット配布	子宮頸がん検診の受診 17.4%	未把握（H30年度確定）								

大目標	2. がん対策を推進します 目標1　がんによって亡くなる人を減らします 目標2　がんになってもみんなが安心して自分らしく暮らせる地域社会の実現を目指します

		主管課評価						庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課	取り組み内容	健康指標 H28目標	健康指標 H28実績	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	
(3)	がんの健康教育およびがんの普及・啓発活動を推進します。 第3期「日野人げんき！」プラン冊子　P50～	健康課（教育委員会との連携）	1　小学生・中学生の頃からのがん教育のさらなる推進を図ります ・市内の小学校・中学校におけるがん教育を実施：市立病院菊永医師による「出前授業」は４校＋がんサバイバー脇本副校長による「がんの授業」は１校実施。	がん教育の実施率 24%（6校）	20%（5校）	概ね順調	菊永医師と脇本副校長による授業は計5回。小学校では6年生、中学校では3年生に実施した。脇本副校長の授業では2日間にわたり、計7クラスで厚生労働省の研究チームの視察も受け入れた。平成29年度以降は中学校に「がん教育資料作成委員会」で作成した指導要領と教材DVDも配布されるため、中学校では保健体育の授業の中で全校での実施となる見込み。平成32年までには小学校用の教材も作成、小中学校合わせて実施率100%となる見込み。	概ね順調	継続した取組の維持継続が必要であり、学校での健康教育は次世代への啓発の仕組みとして非常に重要。引き続き専門家と連携し進めてほしい。	概ね順調	市内小学校におけるがん教育は次世代への啓発行為として高く評価できる。平成32年度までには小中学校合わせて実施率100%となる見込みとは頼もしい限りである早期の100%達成を望む。	市内小中学校全校でがん教育を実施。 H30年度中間アンケートを実施。
(4)	がん患者やその家族への支援をすすめます 第3期「日野人げんき！」プラン冊子　P55		大目標4「住み慣れた地域で生き看取られる暮らしへの支援を充実します」P83～により評価します。									

大目標	3. 歯とお口の健康づくりを推進します 目標1 歯とお口の健康の大切さを知り、生涯にわたって健口であることを保ちます 目標2 予防や治療に向けてみんながかかりつけ歯科医を持ち歯科保健医療サービスを適切に活用します

		主管課評価							庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課		取り組み内容	健康指標 H28目標	健康指標 H28実績	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	
(1)	【乳幼児期】歯みがきや噛む習慣を身につけ、むし歯のない健康なお口を育てます 第3期「日野げんき！」プラン冊子 P59～	健康課	1	1歳6か月児でむし歯のある子どもの歯科受診を支援する 1歳6か月健診時に歯科医師・歯科衛生士による受診勧奨を実施した　受診勧奨数：16人	1，6歳でむし歯ある児の受診率 100%	100%	順調	1歳6か月児健診・3歳児健診の場でむし歯のある子どもに対する受診勧奨やハイリスク児の早期受診への支援、むし歯予防のための情報提供や個別指導をするという視点をもって健診を受けたすべての子への支援にに取り組むことができた。しかし、仕上げ磨きについては、未達であるので、原因と対策を行っていく	順調	幼児からの歯科検診、受診勧奨は、非常に重要な事業である。今後も継続し、更に受診率を高めて行って欲しい。 ハイリスク児における保健師との連携については非常に有効な手法である。今後の課題として具体化していく必要がある。歯科医会との連携もさらに進めてほしい	順調	乳幼児からの歯科検診は非常に重要である。健康な口腔内を維持するためにも乳幼児健診を継続してもらいたい。ハイリスク児に対する取り組み方も評価したい。	健康な口腔内を維持するために、引き続き乳幼児健診を利用し周知・指導をおこなう。また、ハイリスク児を保健師と連携し支援し早期の歯科受診に繋げる。
			2	3歳児でむし歯のある子どもの歯科受診を支援する 3歳児健診時に歯科医師・歯科衛生士による受診勧奨を実施。 受診勧奨数：150人	3歳でむし歯ある児の受診率 70%	100%							
			3	ハイリスク児の歯科受診を支援する 健診時、カンファレンスにあがった子（ハイリスク児）に保健師と一緒に受診勧奨を行った。　受診勧奨数　8人	ハイリスク児の歯科受診 100%	100%							
			4	3歳児で仕上げみがきの毎日実施をめざす 健診アンケートから「仕上げ磨きしていない子」を抽出し保護者に直接指導を行った。　指導数　55人	保護者の仕上げ磨き実施 100%	96.5%							
			5	3歳児でフッ素（歯磨き剤等）を使用して口腔ケアをする 1歳6か月健診時にはパンフレット配布によるフッ素の情報提供を実施3歳児健診では歯科医からの直接指導を行った。 フッ素（歯磨き剤等）の使用数1,073人	自宅でのフッ素利用 67%	68.7%							
(2)	【学童期】歯とお口の健康づくりの基礎をつくりむし歯と歯周病を予防します 第3期「日野げんき！」プラン冊子 P66～	学校課	1	12歳（小学校6年生）で永久歯にむし歯経験がない子どもを増やす 学校歯科医による学校での歯磨き指導等に取り組んだ	小6までむし歯ない子 80%	81.9%	概ね順調	未受診者に対するその後のフォロー体制構築が今後の課題となる。	順調	各事業とも目標数値に達している。幼児に続き、小・中学校での歯科教育や受診勧奨は重要である。継続と、受診率向上を期待する。	順調	順調に進んでいるのは現場での工夫、努力の結果だと思います。課題としてあげられた未受診者に対するフォーロー体制構築についても、重要な取り組みなので、実現に向けた検討を早急に進めて欲しい。	・学校歯科健康診断の結果において歯科治療の必要のある子どもに対し、治療勧告用紙を2回発行し受診勧奨する。 ・学校歯科検診結果時に要治療の子どもの受診率を向上させるため学校保健会、養護教諭会と連携を取る。
			2	中学1年生の要治療者が歯科医院を受診する割合を増やす受診勧奨を通知。さらに未受診者へは再通知にとりくんだ。未受診者への、再通知、保護者面談での受診のお願いなどを実施し、中学1年生で要治療者となった子どもが歯科医院を受診した割合が向上した。また、中学1年生に対し、「歯の治療」に関するアンケートを実施し、未受診になるケースを検討した。	中1で要治療＋受診した割合 45%	56.9%							

大目標	3. 歯とお口の健康づくりを推進します 目標1 歯とお口の健康の大切さを知り、生涯にわたって健口であることを保ちます 目標2 予防や治療に向けてみんながかかりつけ歯科医を持ち歯科保健医療サービスを適切に活用します

		主管課評価							庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課		取り組み内容	健康指標 H28目標	健康指標 H28実績	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	
(3)	【成人期】かかりつけ歯科医で定期的に検診を受診し自己管理方法を習得することでお口の健康および全身の健康を守ります。 第3期「日野げんき！」プラン冊子 P71～	健康課	1	お口の健康診査（歯周病検診）の受診率を上げる ・検診時の健康教育の充実及び健口手帳を配布。 ・お口の健康診査受診後も、検診時に健口手帳を提示すると引き続き無料で口腔内状態や指導等が記録される。受診者数が2,286人	歯周病検診の受診率 14.0%	10.9%	概ね順調	受診率向上のため、受診しやすいように検診実施期間の延長や周知方法の工夫を検討する。 28年度の周知は対象者全員に対し勧奨通知を送付し、10月頃に未受診者全員に対し再勧奨通知を送付している。今後も引き続き、受診率向上策について検討を行う。	概ね順調	実施期間の延長や周知方法の工夫とともに、受診動機を促す工夫も必要と思われる。習慣となるようなアプローチの工夫が必要。「受診」は医者に行くことのハードルがあるのでは。かかりつけ歯科医の定着を目途とするだけでなく、受診率が上がるような工夫を（再勧奨等）をもっと行うべき。	概ね順調	受診対象者の拡大により、受診者数は一時よりは増加したが、受診率の向上には、機会の拡大と受診の必要性をさらにPRしていく必要がある 歯の健康の重要性をいかに啓発していくかが大切である。更なる対策を検討してください。	受診率向上のため受診しやすいように検診実施期間の延長や周知方法の工夫を検討する。 再勧奨通知を年2回実施。 アンケート調査実施により中間アンケート実施
			2	お口の健康診査（歯周病検診）の受診者がかかりつけ歯科医に定着する割合を上げる ・健康教育を充実し、健口手帳を活用することで、受診者のさらなるかかりつけ歯科医の定着、口腔内の健康維持を図った。	—	—							
(4)	【高齢期・障害のある方も含む】自分にあった口腔ケアを実践し、しっかり噛める歯を保ち食事を楽しむことをすすめます。 第3期「日野げんき！」プラン冊子 P 78～	健康課		飲み込み機能低下者への支援体制を展開する、また地域でのフォローできる体制をづくりをする。 摂食・嚥下基礎調査結果をもとに課題の洗い出しを行った。課題解決のため、周知啓発・他職種間連携・食形態の統一基準の周知の３つに方向性を整理し協議会で検討を行った。 【周知啓発】 ・市民に摂食・嚥下障害を啓発するためのポスターを作成。 ・市民向け講演会（出張講座）を包括支援センターやふれあいサロンで連携・実施。 【他職種間連携】 ・摂食・嚥下障害悩む方を支援するために、連携システム構築について検討。さらに連携ツールとして、摂食嚥下のアセスメントシートを検討。 ・摂食・嚥下機能のアセスメントについて、ケアマネジャー対象の講演会を実施。参加者70名 【食形態の統一基準の周知】 ・食形態に関わる情報の整理・周知方法の検討を行い、さらに関係職種との情報共有を行った。情報共有のため、地域の事業所等で提供している食形態情報や嚥下調整食の販売状況を検索できる食形態サイト「食べるを支える」へ日野市の情報掲載をすすめた。日野市の介護医療施設５２件、宅配食事業者１０件の情報を掲載 ・歯科医院に通院することが困難な方を対象に実施している訪問歯科診療ができる歯科医師の紹介事業について見直しを行った。日野市歯科医会と連携し検討を行い、従来の実施体制よりスムーズに紹介を行えるようにシステムを再構築した。	—	—	概ね順調	摂食・嚥下への取組体制は整備されてきた。多職種連携の具体化、連携ツールとなるアセスメントシートの運用が課題。	概ね順調	・摂食・嚥下機能は高齢者にとって、大変重要な機能である。機能低下の予防や、摂食・嚥下障害になった方への支援体制の構築が必要。事業の継続と共に、継続的な啓発も必要。 ・後期高齢者の歯科検診導入と共に、前進させていきたい事業である。	概ね順調	・摂食・嚥下機能は高齢者にとっては重要な機能である。馴染みのない「摂食・嚥下」という言葉に周知啓蒙を図るための市民講演会の実施を計画されていることは評価したい。 ・摂食嚥下機能の認知度向上には、民間等の力を借りて共に進めるような取り組みが必要である。	平成29年度は後期高齢者歯科検診開始に向けた体制整備。 ・平成29年度も引き続き市民講演会（出張講座）を実施し、馴染みのない「摂食・嚥下」という言葉の周知啓発を図る。 ・薬局の嚥下調整食販売状況についても、今後掲載する。嚥下調整食・介護食の食形態サイト「食べるを支える」を利用してもらうため、サイトについて周知を行う。 ・後期高齢者歯科検診の受診率を向上させる（H30,5月～開始） ・摂食・嚥下：協議会をもとに始まる地域での取り組みを推進していく。
					—	—							
					—	—							

大目標　4. 住み慣れた地域で生き看取られる暮らしへの支援を充実します（地域包括ケアシステムの構築）

		主管課評価							庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課	取り組み内容	健康指標		達成状況	評価と課題		達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	
				H28目標	H28実績								
(1)	総合的な健康情報の発信の体制を確立します 第3期「日野げんき！」プラン冊子　P83～	健康課	1　健康情報誌「ひのイキ」を定期発行する 年2回発行。テーマは9月15日号「糖尿病」、2月15日号「高齢者の筋力」。	情報誌の定期発行率 100%	100%	概ね順調	1.年2回のひのイキ発行を実施。テーマは9月15日号「糖尿病」、2月15日号「高齢者の筋力」。 3,4.9月よりフェイスブックの運用を開始。健康課公認キャラクター「ひのった」を使用しながら、市民にとって身近で分かりやすい情報発信に努めた。しかし、まだフォロー数も少なく別の媒体も含め情報発信の工夫を継続して行わなければならない		順調	健康情報誌「ひのイキ」、子育てサイト「ぽけっとなび」、広報、ホームページ、フェイスブックのどれもが充実しており、高く評価できる。今後は内容の見直しを随時行い、より分かりやすく興味をそそるような内容となるよう工夫していくことが望まれる。	順調	「ひのイキ」「ほけっとなび」をはじめ、広報、ホームページ、フェイスブックなど市民にとって身近でわかりやすい情報、発信がされている。今後もより一層わかりやすい情報提供をしてほしい。「ぽけっとなび」やフェイスブックの評価は、今後アクセス数やフォロワー数等で評価すべき。	引き続き広報、フェイスブックでの情報発信は続け、新たに若年層をターゲットに大学の学園祭等の機会を利用し、健康情報を発信していく。 ・情報発信の評価としてフェイスブックのアクセス数やフォロワー数も取り入れる。
			2　子育てサイト「ぽけっとなび」による情報発信を充実する。	「ぽけっとなび」の情報発信実施率 100%	100%								
			3　広報、ホームページによる情報発信を工夫する 健康課公認キャラクター「ひのった」を使用しながら、市民にとって身近で分かりやすい記事の工夫に取り組んだ	広報、ホームページへの工夫 100%	100%								
			4　メディアによる情報発信を工夫する 9月よりフェイスブックの運用を開始。健康課公認キャラクター「ひのった」を使用しながら、市民にとって身近で分かりやすい情報発信に努めた。	フェイスブック運用実施 100%	100%								

大目標　4. 住み慣れた地域で生き看取られる暮らしへの支援を充実します（地域包括ケアシステムの構築）

		主管課評価						庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課	取り組み内容	健康指標 H28目標	健康指標 H28実績	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	
(2)	医療と介護の連携を推進します 第3期「日野げんき！」プラン冊子　P85～	高齢福祉課 健康課	1 在宅高齢者療養推進協議会のを核とした介護と医療の連携推進と強化をする 検討部会にて、主に①介護と医療の連携推進勉強会を3回開催参加者：専門職140人 ②多職種連携ガイドの電子化について検討・企画を行い実施した。電子化を行うことで介護と医療の連携ツールとしての利便性を高めることができた。	—	—	概ね順調	全体的にはおおむね順調に推進しているが幅の広い取り組みのため個々の評価を記す。 1勉強会を通し医療と介護の連携推進に取り組めている。 多くの職種が参加でき、効果的な勉強会にするための工夫、満足度の高い内容の設定などが今後の課題となる。 2,窓口での対応件数は年々増加しており、今後も高齢者数の増加に伴いさらに増加することが見込まれている。そのような将来予測を踏まえ、適切に対応できるよう体制の 強化や再構築を検討する必要がある。 3,当初は多摩平の森A街区に開設する医師会館内での開設を協議してきたが、スペースの問題等によりA街区近隣で市が運営主体となり医師会の協力を得ながら開設を目指すこととなった。 開設場所及びスタッフ（MSW・看護師など）の確保と既存の日野市立病院の在宅療養高齢者支援窓口・ 地域包括支援センターとの役割分担などの整理が課題. 4、平成28年度の実績は、 現状の病床稼働率を踏まえ、病床を通年で確保することの必要性や他病院への病床確保の可能性などについて検討する必要がある。	概ね順調	地域における他職種連携の強化は喫緊の課題と認識している。項目１から４まで、未来に向けて、さらに需要が広がる重要事業である。超高齢者を支える中心事業であるため、どの事業も継続しつつも、顔の見える関係づくり、工夫、改善を視野にいれて進めていただきたいと思う。 指標として年次計画が立てられると評価につながるのではないか。	概ね順調	医療と介護の連携は非常に大切である。既存の取組みとして、「顔の見える関係づくり」としては、成果を高く評価する。 今後とも地域における他職種連携の強化を推進し、より成果をあげてもらいたい。指標として年次計画が立てられると評価につながるのではないか。	１　継続的な取組として、地域包括支援センターと連携し、認知症サポーター養成講座の開催を推進する。 認知症サポーターが地域で活躍できる「場」「機会」等の創出について検討を進める。 ２　平成２９年７月に「多摩平の森の病院」内に医療連携型認知症カフェを新設する予定。 ３　平成２９年７月に「多摩平の森の病院」内に認知症初期集中支援チームを新設する予定。平川病院（拠点型認知症疾患医療センター）との協定に基づくアウトリーチ事業や認知症支援コーディネーター事業も継続して実施する予定。都事業の拠点型及び地域連携型認知症疾患医療センター、東京都多摩若年性認知症総合支援センターとも有機的に連携が図れるよう必要な調整を行っていく。・がん患者やその家族への支援については患者会へ参加し、患者の現状把握。がんの関係者が使える社会資源を把握し、相談対応が可能にしていく。 ・平成30年度より「第3期日野市高齢者福祉総合計画」にて推進していく
			2 在宅療養支援に関する専門相談窓口での対応と在宅療養に関する普及・啓発をする 日野市立病院内に医療に在宅療養支援に関する「医療」に特化した専門相談窓口を設置（平成24年度からの継続事業）し、相談の受付、入退院時の調整、情報提供などを実施した。対応件数：1277件	—	—							
			3 在宅医療・介護の連携体制の構築、連携拠点の整備をする 日野市医師会と協議実施	—	—							
			4 在宅医療・介護サービスを痛い駅に切れ目なく提供できる体制整備をする 在宅療養高齢者の病床の急変時等の緊急一時的な受入れ先として、日野市立病院の病床を２床通年で確保した。 入院者実人数20人、入院延べ日数237日、病床稼働率32%。	—	—							
			大目標2－(4)がん患者やその家族への支援 患者家族をサポートする体制づくり	—	—							

大目標　4．住み慣れた地域で生き看取られる暮らしへの支援を充実します（地域包括ケアシステムの構築）

		主管課評価						庁内評価会議		評価推進委員会		今後の取組み・改善
No.	中目標	担当課	取り組み内容	健康指標 H28目標	健康指標 H28実績	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	達成状況	評価と課題	
(3)	地域連携による認知症対策を強化します 第3期「日野げんき！」プラン冊子　P87～	高齢福祉課	1認知症サポーターの養成や認知症高齢者徘徊発生時の捜索ツール「靴シール」の導入 認知症サポーターの養成　H28年度　1,837人 今までの延べ人数12,034人 2,「医療連携型認知症カフェ」及び「認知症初期集中支援チーム」の設置をする JR豊田駅北口多摩平の森Ａ街区に新設予定の医療施設（多摩平の森の病院）との間で「医療連携型認知症カフェ」及び「認知症初期集中支援チーム」の設置に関する協議・調整を行い、平成２９年７月（予定）に当該医療施設内に新設することの合意を得ることができた	—	—	概ね順調	認知症対策の取り組みは充実に向け動き出している。 今後は小中学生を含め若年層の認知症サポーターの養成とサポーターが地域の中で活躍できる環境の整備が課題	概ね順調	「医療連携型認知症カフェ」及び「認知症初期集中支援チーム」の設置の目途を立てたことは高く評価できる。 また「靴シール」の導入など、今後増加が見込まれる認知症高齢者をサポートする体制は地域と連携して進める必要がある。 引き続き社会全体の問題として捉えられていくよう、広範囲への啓発や協力をしていくことが望ましいものと考える。 指標として年次計画が立てられると評価につながるのではないか。	概ね順調	・認知症対策の取り組みが充実に向けて動き出しているのを評価します。指標として年次計画が立てられると評価につながるのではないか。	１　継続的な取組として、地域包括支援センターと連携し、認知症サポーター養成講座の開催を推進する。 認知症サポーターが地域で活躍できる「場」「機会」等の創出について検討を進める。 ２　平成２９年７月に「多摩平の森の病院」内に医療連携型認知症カフェを新設する予定。 ３　平成２９年７月に「多摩平の森の病院」内に認知症初期集中支援チームを新設する予定。平川病院（拠点型認知症疾患医療センター）との協定に基づくアウトリーチ事業や認知症支援コーディネーター事業も継続して実施する予定。都事業の拠点型及び地域連携型認知症疾患医療センター、東京都多摩若年性認知症総合支援センターとも有機的に連携が図れるよう必要な調整を行っていく。 平成30年度より「第3期日野市高齢者福祉総合計画」にて推進していく。 平成30年度より「第3期日野市高齢者福祉総合計画」にて推進していく